

第 41 回沖縄平和行進に参加して

全港湾関西地方大阪支部

青年部 金津 亮介

まず始めに「平和」とは何かと言う事を学びました。

平和とは恐怖と結合からの自由だと。

平和とは恐怖と結合から逃れられた状態だと。争いや戦争を力の行使で止めるのでは無く、差別や貧困等を無くし、そして支援する事によって争いを根源から無くす事で本当の平和が実現されるのだと。

自分は始めて沖縄に来ましたが、そこには綺麗な海の近くには似つかわしくない米軍基地がありました。

自分たちが行進していると、シュプレヒコールを簡単にかき消す程の爆音で戦闘機が空を縦横無尽に飛んでいました。

戦闘機はこんなにもうるさいのかと正直びっくりし、毎日この音を地元の人達は我慢してるのかと思うと、自分にも我慢出来るのかと疑問になりました。しかし我慢せざるを得ないんだろうと思いました。

戦争は良くない、戦争を起こしてはならない！ほとんどの日本人はそう思っていると思います。

今までの自分はただ漠然と、戦争は良くないものだ！とと思っていましたが、

平和行進に参加させて頂き沖縄の激戦地の空気に触れ、まだ回収されていない爆弾などの存在を知り、沖縄の戦争はまだ続いているのだなと感じました。

戦争で亡くなった人達の事を想うと、戦争の悲惨さをまだ尚、後世に受け継がないといけな

いと思いました。

しかし基地は無くならず、むしろ新基地を作り武力の強化が促進されている。ものすごく綺麗な「沖縄の海」を埋め立ててまで作る基地とは一体なんなのだろうか。

県民は納得していないのに着々と工事が進められるのはどう言う事なのだろう。

米兵の事故や犯罪は、新聞やテレビ等のメディアで報道されていないものが多々あるのだと思います。

そんな米兵達に怯えて沖縄に暮らす人達は果たして本当の幸せを手にしてると言えるのだろうか。

恐怖との結合から逃れられていると言えるのだろうか。

自分は決してそう思う事は出来ません。

まだまだ沖縄は課題が山積みだと感じました。

それでは何故？こんなにも訴え続けているのにも関わらず、まだ尚基地が存在し拡大されていくのか。

平和を求めるには武力による牽制が必要だという人がいてるからだと思います。つい最近尖閣諸島のニュースが取り上げられて日本が侵略されてしまうと感じたのではないだろうか。それをさせまいと綺麗な海を埋めてでも米軍と共闘し、武力によって自国を守るという考えがそうさせているのではないだろうか。

日米地位協定を見直し、多くの方が本当の意味で1つになり心から平和と思える日が来るといいなと思いました。

何が正解なのかは私には分かりません。

そして正解も時代によって変わってくると思います。

その中で自分達の出来る事は時代に沿ってより良い選択をし、これからも団結して活動していく事だと思いました。

この沖縄平和行進は、こういった事を見つめ直し考えるこの時間、題材が1番大事だと。1番の報酬だと感じました。